

○フレックスカーのレオンハート氏によるコメント

いろいろなご報告を聴かせていただき、ありがとうございます。日本でもカーシェアリングが実際に始まっており、いろいろな取り組みが行われているということを初めて知り、感銘を受けました。

質疑応答も聴いていましたが、我々フレックスカーが4年間やってきた中で、いろいろな人から受けた質問、また、我々の競合他社でカーシェアリングをやってきた人たちが受けた質問と同じようなことがここでも投げかけられているのに驚きました。

カーシェアリングってどんなものなんだ、どういうところにフィットするのか、どうやって機能するのか、価格はどうなっているか、政府の役割は何で、民間事業者の役割は何か。そのような質問がたくさん出ましたが、我々も4年間、ずっと問いかけられてきたわけです。

4年経ってもすべての質問への答えを有しているわけではありませんが、我々なりに前進をしてきたし、おそらく日本でも同じようにこれから進んでいくのだろうなと思っています。

ただ、ある程度自信を持って言えることが一つあります。カーシェアリングはすべての日本の交通に関するニーズに応えるものではない、すべてに関する万能薬ではないということです。カーシェアリングが導入されたからタクシーは要らないとか、レンタカーは要らないとか、マイカーも要らないとか、電車・バスその他の公共輸送網が要らなくなる、そういうわけではないと思います。

むしろ、カーシェアリングを導入することによって公共輸送網をよりよいものにすることができると思います。例えば、公共輸送網への不満として一番多いのは、自分たちが行きたい所に電車やバスが行っていないというものです。二番目に多いのは、自分たちが使いたい時間に電車やバスが走っていないというものです。公共輸送網とカーシェアリングをつなぐことによって、例えば途中まで電車やバスで行ってもらって、そこからカーシェアリングの車で目的地まで行くことが可能になったり、例えば、終電に乗り遅れた場合、電車が走り始める翌朝6時までオフィスで仮寝をするのではなく、オフィスの1階にあるカーシェアリングのステーションへ行って、その車で帰る。そして翌朝、その車をオフィスまで持ってくる。そのような連携した使い方ができると思います。

それから、カーシェアリングは先ほど挙げたいろいろな交通サービスのニッチを埋めていくこともできると思います。したがって、いろいろなサービスの人たちと組んでやっていくことが重要で、全体的な交通問題の解決策の一部をカーシェアリングが担っているというポジショニングをとることが大切だと思います。他のサービスを提供している人たちにとって、「競合」というポジショニングをとることは賢明ではないでしょう。今いろいろお話を伺ってきて、おそらく皆さんは正しい方向に向かっておられると思います。今後の日本でのカーシェアリングの発展に大いに期待しています。